

Docu-SEの更新・新設一覧

目次

バージョンアップ【時期】	ページ
(Ver. 1. 1-L07) ⇒ (Ver. 1. 1-L08) 【2020年 2月】	p. 1
(Ver. 1. 1-L06) ⇒ (Ver. 1. 1-L07) 【2019年 9月】	p. 1
(Ver. 1. 1-L05) ⇒ (Ver. 1. 1-L06) 【2019年 2月】	p. 1
(Ver. 1. 1-L04) ⇒ (Ver. 1. 1-L05) 【2018年 7月】	p. 1
(Ver. 1. 1-L03) ⇒ (Ver. 1. 1-L04) 【2018年 1月】	p. 2

Docu-SEの主な更新一覧
(Ver. 1.1-L07⇒Ver. 1.1-L08)【2020年2月】

項番	項目	主 な 更 新 内 容	
1		(1)	JRSNAP Ver. 5.1-L08に対応しました。(JRSNAPフォルダ指定等)

Docu-SEの主な更新一覧
(Ver. 1.1-L06⇒Ver. 1.1-L07)【2019年9月】

項番	項目	主 な 更 新 内 容	
1		(1)	JRSNAPフォルダ設定で、JRSNAPフォルダを指定しても、再度設定画面を開くと元フォルダが指定される不具合を修正しました。
	Batch	(2)	地盤の不整形性の影響を考慮した応答値の算定機能を追加しました。

Docu-SEの主な更新一覧
(Ver. 1.1-L05⇒Ver. 1.1-L06)【2019年2月】

項番	項目	主 な 更 新 内 容	
1	Batch	(1)	基礎照査のための回転杭の制限値をSoil-JRから連携する際に、安定レベル1の引抜き抵抗力の値が上手く入力されていない不具合を修正しました。
		(2)	Soil-JRから基礎の制限値を読み込む機能について、液状化による低減係数を考慮できるように連携機能を改修しました。

Docu-SEの主な更新一覧
(Ver. 1.1-L04⇒Ver. 1.1-L05)【2018年7月】

項番	項目	主 な 更 新 内 容	
1	Batch	(1)	設計総括表において、部材損傷レベルの照査ステップがJRSNAPと若干異なる現象が発見されたため、その原因を調べて、JRSNAPと同じような途中結果のラウンド処理方法を採用し、同一の結果が出るように仕様を改修しました。
		(2)	部材断面の制限値の設定機能を改良し、JRSNAP中のMFカード（固定値入力による非線形特性設定）を含むデータを扱えるようになりました。
		(3)	設計標準で定められた既定の所要降伏震度スペクトルを使用しない場合について、ユーザーが決めた任意の応答塑性率を直接入力できるように、新しい機能を追加しました。
		(4)	せん断部材の照査のために、下記のように、コンクリート標準以外の異なる設計基準類に準拠したせん断耐力の算定機能を体験版として追加しました。 ①鉄道総研【耐震照査の手引き】：(8.1)に準拠した逆対称曲げモーメントが作用する場合のせん断耐力 ②JR東日本【RCマニュアル】：(7.2.3.2)に準拠したせん断耐力 ③整備新幹線【設計内規】：(2.4(3))に準拠した梁・柱部材のせん断耐力
		(5)	「計算実行」で生成されたPDFの結果ファイルを速やかに再表示するために、「再表示」ボタンを追加しました。
		(6)	「計算実行」の後に生じるエラーメッセージの原因分析と対処方法を追記しました。
		(7)	マニュアルの精査を行い、内容を充実しました。

Docu-SEの主な更新一覧

(Ver. 1.1-L03⇒Ver. 1.1-L04) 【2018年1月】

項番	主 な 更 新 内 容	
1	(1)	Output-JRのデータ確認図において、Docu-SE用のワークファイル出力時にエラーが発生した不具合を修正しました。
	(2)	「新規作成」アイコン直後に「開く」を選択すると「パスの形式が無効です。」と表示され、ファイルを選択することができなかった不具合を修正しました。
	(3)	Batch 「このデータは応答変位置に達していません」というメッセージの意味を解説する文章をマニュアルに追記しました。
	(4)	画面「照査パラメータ」の「液状化指数PL」の画面構成を上から下へ順番に入力するように改良しました。